

令和5年11月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,885	9,200	4,646	4,554	49	98
2 千 石	4,183	6,908	3,473	3,435	3	△ 10
3 内 山	5,747	7,965	4,283	3,682	△ 5	△ 1
4 大 和	3,611	6,676	3,310	3,366	△ 6	△ 32
5 上 野	7,494	15,436	7,544	7,892	1	△ 11
6 高 見	7,382	13,256	6,324	6,932	56	46
7 春 岡	7,023	10,986	5,818	5,168	16	11
8 田 代	11,343	21,893	10,457	11,436	6	7
9 東 山	10,355	19,049	9,303	9,746	10	17
10 見 付	4,579	8,464	4,262	4,202	9	△ 10
11 星 ケ 丘	3,597	6,845	3,051	3,794	2	△ 1
12 自 由 ケ 丘	3,550	7,183	3,270	3,913	4	△ 7
13 富 士 見 台	6,494	15,091	6,854	8,237	2	5
14 宮 根	3,818	8,021	3,714	4,307	△ 1	△ 15
15 千 代 田 橋	3,743	8,224	3,863	4,361	6	△ 1
千 種 区 計	88,804	165,197	80,172	85,025	152	96
R4.11.1	87,845	165,079	80,141	84,938	152	146
対 前 年 比	959	118	31	87	0	△ 50
名 古 屋 市	1,158,335	2,327,950	1,142,676	1,185,274	1,591	1,267
愛 知 県 (R5.10.1)	3,327,701	7,480,897	3,725,279	3,755,618	2,072	△ 649

前月中の 増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	76	140	△ 64	1,047	887	160

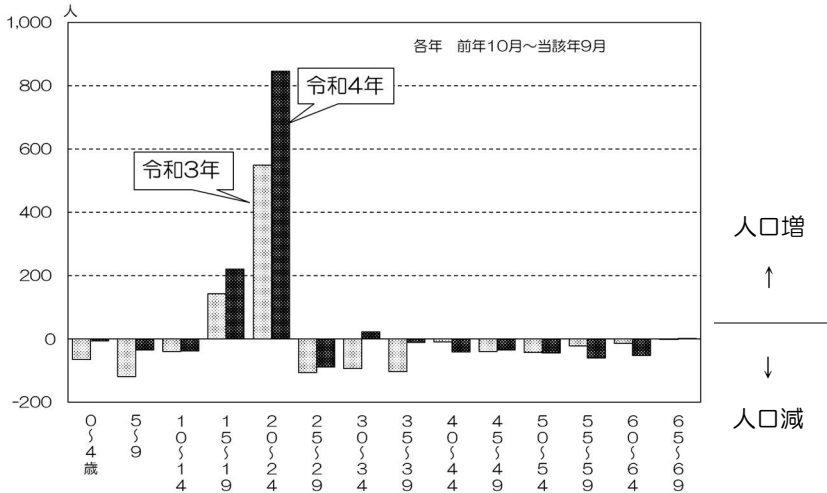
【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

千種区の5歳階級別社会増減数の推移

今回は愛知県人口動向調査（名古屋市分）に基づいて、本区の年齢5歳階級別社会増減数（転入数－転出数）をみていきます。



令和3年と令和4年の年齢5歳階級別社会増減数（図1）を見てみると、いずれも15歳～19歳、20歳～24歳で社会増（本区への転入超過）がみられます。千種区は大学が多く、在学中の年齢である15～19歳、20～24歳の範囲で本区への転入が多くなっています。15歳～19歳と20歳～24歳の合計において令和4年は令和3年より転入数は約54%増加しています。

また、25歳以降の年齢階層では就職のために区外へ転出する傾向があります。

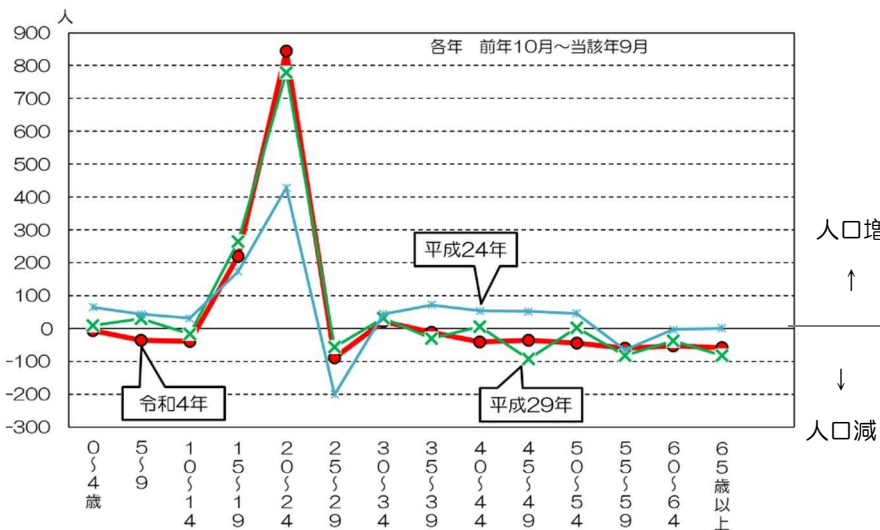


図2: 年齢5歳階級別社会増減数の推移
（平成24年から令和4年までの10年間の比較）

平成24年から令和4年までの5年ごとの年齢5歳階級別社会増減数の推移（図2）を見てみると、15～24歳に本区に転入し、25～29歳で転出するという傾向に大きな変化はみられません。20～24歳の社会増減数は、令和4年が800人以上と平成24年と比較して10年間で倍増の社会増傾向にあります。

一方で、25～29歳の社会減傾向は令和4が平成29年に比較して半減しています。

また、その他の年代について10年間を比較すると、社会増減数は30～34歳で社会増傾向にあります。平成24年は50～54歳の階級まで社会増傾向であり、平成29年は年齢階級によって増減の変化がある一方、令和4年は40歳代以降についておおむね一定の減少傾向にあります。